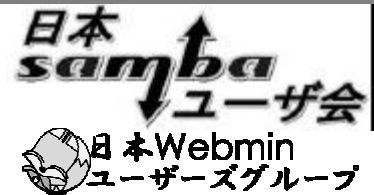


# Sambaの運用管理にWebminを使う(SWATの暗号化対応など)



## Webminとは？

Webminは、カルデラ社を中心に開発されているフリーの管理ツールです。BSDライセンスで配布されています。WebブラウザだけでLinuxの管理がすべてできます。開発はカルデラ社以外にも多数参加しており、GPLライセンスやBSDライセンス、商用ライセンスのさまざまなアドオン・ツールが、<http://webmin.thirdpartymodules.com/> から入手できます。また、管理画面は日本語対応しています。

SambaにはSWAT (Samba Web管理ツール) という管理ツールがありますが、SWATではSambaにアクセスするためのLinuxユーザの管理や共有ディレクトリの管理、Samba専用アカウント管理とLinuxのアカウント管理との同期、安全に暗号化された通信路などに対応していません。

Webminを使う事で通信路の暗号化ができるようになり、セキュリティの向上が図れます。さらに、Apacheなどのサーバの設定を始めとしたユーザ管理、システム管理等を統合して管理を行なう事が出来ます。

## SWATの欠点

- 暗号化パスワードのときにシステムアカウントの追加/削除と同期できません。
- 共有フォルダを新規設定する場合、対応するディレクトリを手動で作成し、適切なアクセス権を設定しなければなりません。
- Samba全体の設定変更にはrootでの認証が必要ですが、認証コードが暗号化されていません。
- SWATはSSL(https:)での接続をサポートしていないので盗聴から守られていません。

## Webminを使うと..

- Webminの中で作業すればシステムアカウントとSambaパスワードファイルのアカウントを自動的に同期します。
- 共有フォルダやディレクトリの管理もWebminの中で作業できます。ただし自動的な同期には対応していません。
- root以外にも指定するユーザに機能を選択して、その機能の管理権限を与えることが可能なので、rootの認証コードをネットワークに流さない運用が可能です。
- WebminはSSLでの接続をサポートしていて、Webminの暗号化された通信を経由してSWATが使えます。

## SWAT+Webminを推奨する場合

- 大規模社内LAN/インターネット経由など盗聴が心配される環境でSWATを利用したい場合。
- Linux/UNIXに慣れていない運用管理者でシステムを管理したい場合。
- Sambaの運用管理者にroot権限を利用させずにSambaサーバの管理のみを限定して行わせたい場合。

## SWATをWebmin経由で利用する場合の注意点

- Webminにある簡易的Samba管理メニュー以外の詳細設定をSWATで行う場合にはroot権限とrootパスワードが必要です。
- SambaやWindowsネットワークの知識の欠如を補ってくれるわけではないので、これらの知識は必要です。
- 現状では、日本Sambaユーザ会が配布しているSamba日本語版ではSWATを日本語で表示することができません。対応させるためには次のうちのいずれかの対策を行ってください。
  - 一部のLinuxディストリビューションで対応版を配布していますが、他のLinux/UNIXではこのパッケージ中のパッチを個別に適用して対応版のWebminを自力でインストールする。
  - Sambaをソースからリコンパイルするときに、configureオプションに`--with-swat-def-lang=ja`を追加してリコンパイルし、これをインストールする。
- 適切なアクセス許可IPアドレス設定とログイン試行エラーによるアクセスブロック設定をしないと不審者によるシステムへのクラッキングの試みを防げない場合があります。
- システムにインストールされていないモジュール、システムに未インストールのサーバソフトウェアのメニューがあったり、最初に日本語メニューに切り替える方法が分かりにくい等、この辺の事情/手順を把握した管理者が1人は必要です。

